

家庭教育通信

「家庭教育通信」は子ども達のすこやかな成長を願ってよりよい家庭教育について皆で考え行動することを旨として、白井市教育委員会が情報を発信するものです。

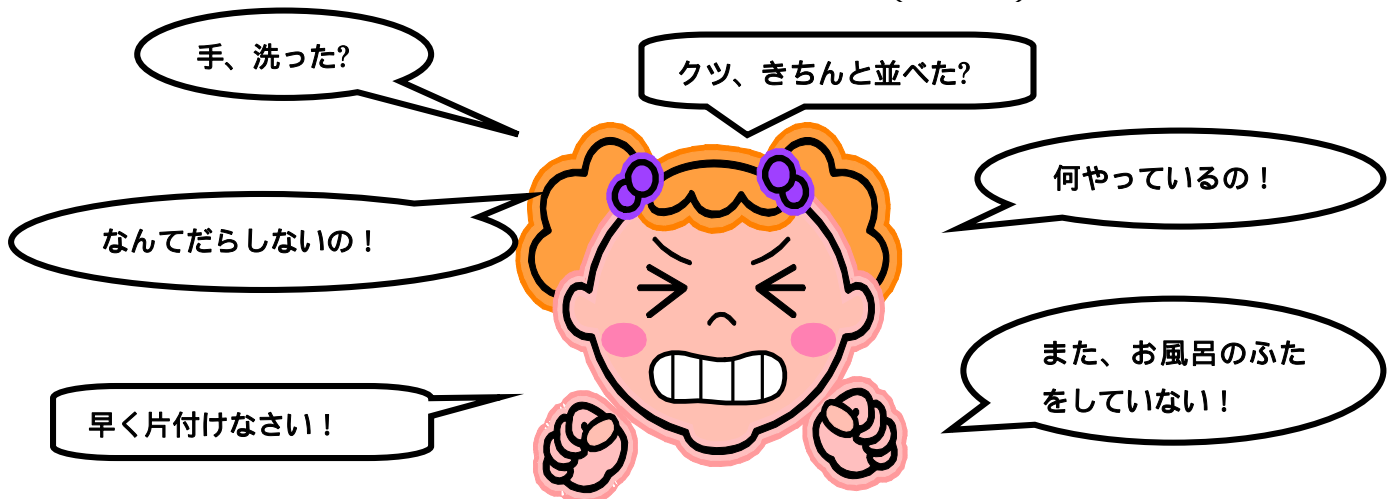
VOL.1

発行：白井市教育委員会

監修：白井市家庭教育講座講師 富澤 裕子

お問い合わせ：白井市教育委員会 教育部 社会教育課

TEL 047(492)1111



普段こんなことばかり言っていないですか

「ランドセルは、リビングに置かないの。自分の部屋があるでしょう？」

「手を洗って使ったタオルは、元通りにかけておくものよ」

「ジュースを飲んだコップを片付けなさい」

「ゲーム、早く片付けなさい。片付けないなら、捨てちゃうよ！」

いいかげんにしなさい！ 何度言ったら分かるの！

と、声はだんだん大きく、甲高くなって、最後には手をあげてしまう。こんな事はないでしょうか。片付けに限らず、宿題勉強、友達つきあい、習い事などについてく、子どもに向かって一方的にくどくどと注意・説教・命令・非難していませんか？

核家族化、少子化により子どもの一挙一動が見えるだけに、親はイライラし、ためらう事なく子どもに怒りをぶつけてしまうことが多くなってきていると言われています。テレビや新聞で報道される「幼児虐待」などの悲しい事件はその極端な例です。

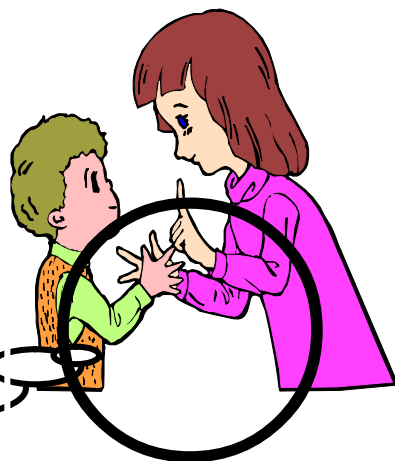
私たち親の世代が子どもだった頃は、祖父母と一緒に暮らしていたり、地域の人と関わる機会が多くありました。そのお陰で、親は子育てについて自

分の親や地域の人に相談したり手伝ってもらったりすることができました。また、人目があることで親の言動にもブレーキがかかり、子どもを決定的に潰すようなしかり方をするとははばかられたということもありました。



現在、多くの家族は核家族でその上、父親は仕事中心になりがちです。また、地域での人と人との結びつきも弱くなっており、隣に誰が住んでいるか分からないということも、ざらにあります。必然的に母と子の向き合う時間は長くなります。その関係がいったんギクシャクし、煮詰まってしまうと、母子ともに逃げ場はなくなり追い詰められてしまうのです。ですからつい声を荒げて「何度言ったら分かるの!」と一方的にしかってしまうのです。

少年事件を起こした多くの子ども達は、「どうせ自分はダメなんだ」「いつも悪いと言われるのは俺だ」「私なんて居なくていいんだ」と自分を否定することが多いのです。家族や周りの大人からしかられたり否定されるばかりで、愛されたり自分を受け入れてもらったりした経験が乏しいためです。いくら子どもの幸せを望んでの子育てでも方法によっては逆効果になることもあります。子どもの全人格を否定する話し方ではなく、子どもにも分かりやすく親の気持ちを伝える話し方をすることが大切です。そのためには、親自身も追い詰められないよう身近に相談したり愚痴を言い合ったりできる人をつくりましょう。また、下記のような公共の相談機関で気軽に相談しましょう。



床にランドセルがあると
つまづきそうで怖いよね。お
母さんは〇〇ちゃんが転んで
けがをしたら悲しいな。だから
自分の部屋に片付けようね。

一緒に考えてみませんか?

家庭教育の悩みや不安について相談するには、

白井市教育センター室 ☎047-492-2301

千葉県子どもと親のサポートセンター ☎0120-415-446

千葉県総合教育センター特別支援教育部 ☎043-227-1166

(障害のある・あるかもしれない子どもの養育や教育について)

養育上の悩みや非行・虐待など児童の福祉相談するには、

中央児童相談所 ☎043-253-4101

(子ども・家族110番)

白井市家庭児童相談室 ☎047-497-3477

(社福)千葉いのちの電話 ☎043-227-3900

(ひとりぼっちで悩まずに……24時間・年中無休)

子どもの非行などを相談するには、

少年センター(千葉県警) ☎0120-783-497

県内の相談場所